

# 読谷山花織

ゆんたんざ

ゆんたんざ

はなうい

経済産業大臣指定 伝統的工芸品

yuntanzahanau



伝統工芸総合センターでは、展示・販売を行っております。  
ここだけでお買い求めいただける小物など、  
美しき手技をお届けいたします。

## 交通アクセス

- 那覇空港から  
自動車・タクシーで約70分  
※カーナビをご利用のお客様は「電話番号」で  
検索してください。
- 路線バス  
● 那覇空港発：120番で約90分  
● 那覇バスターミナル発：  
28・29番で約90分



## 読谷山花織事業協同組合

〒904-0301 沖縄県中頭郡読谷村座喜味2974-2  
TEL/FAX：098-958-4674  
開館時間：平日(9:00~17:00)  
土・日・祝祭日(10:00~17:00)  
<http://www.yomitanzahanau.com>



## 読谷山花織について

1372年、読谷山の宇座出身の泰期は、中山の察度王の王弟として、琉球から初めて中国へ朝貢します。泰期の船出が、琉球と中国の朝貢貿易の始まりとなりました。その後1420年頃になると、護佐丸が座喜味へ築城し、万国津梁の鐘に記されるように、琉球は大交易時代を迎えます。大交易時代は、中国や東南アジア諸国との交易が盛んで、多くの交易品と共に、読谷山花織のルーツとなる緋や浮織の技法も伝来しました。伝来した技法を元に琉球王府時代には読谷山花織として独自に織られ、受け継がれてきました。しかし、その染織技術は明治時代の中頃から時代の波に押され衰退しつつあり、沖縄戦争後は人々の記憶からすっかり忘れ去られ、「幻の花織」となっていました。

このような約600年の歴史を誇る読谷山花織は、絶滅寸前となっていました。1964年に読谷村の情熱ある有志によって約90年ぶりに「幻の花織」が復活しました。当初は愛好会から、読谷山花織事業協同組合の組織へと発展し、現在では沖縄県指定無形文化財、経済産業大臣指定伝統的工芸品として、全国に広く知られるようになりました。



In 1372, a man named Taiki was sent by Satto, the King of Chuzan, to the Ming Court. The aim of this mission was to establish the Ryukyus as a tributary state of China and as an international trading Kingdom.

Around 1420, King Gosamaru built the castle at Zakimi in Yomitan. This was the beginning of the 'Great Trading Age'. The large 'Bankoku-shinryo' Bell carries an inscription which declares the Ryukyu Kingdom a prosperous country at this time.

It is thought that the techniques of Yuntanza-Hanai, Kasuri and Ukiori originated in China and Southeast Asia. They were further developed in Yomitan and became the cotton textiles associated with the Ryukyu Kingdom Era.

Over time, knowledge and use of the techniques gradually declined. By the end of World War II they had been all but forgotten. The textile Yuntanza had 600 years tradition, but it was in danger of extinction.

In 1964, a passionate woman succeeded in reviving the dyeing and weaving techniques that had lain dormant for almost 90 years in Yomitan Village. A group of Hanai enthusiasts formed and later became the Yuntanza Hanai Co-operative.

Today the product is well known throughout Japan and has been recognized by the Ministry of Economy and Manufacturing as a Prefectural Intangible Cultural Asset.

## 特徴と技法



### 技術・技法

読谷山花織・読谷山ミンサー

は、絞織物の一種です。読谷山花織は絹糸や綿糸で、染料は福木、車輪梅、琉球藍などの植物染料を主に用いています。模様を表すのに花綜統を用いる「経浮花織」「緯浮花織」と「手花織」があります。

経浮花織・緯浮花織は布幅の経糸方向又は緯糸方向に色糸を用いて模様を織ります。

手花織は、手で色糸を縫い取るように模様を構成して織ります。

読谷山ミンサーは「グーシ花織」とも呼ばれ、綿糸を用いた細帯で、模様を表すのに紋棒又は花綜統を用いて織ります。

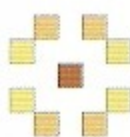


### 製品の特徴

色糸で浮き出す幾何学紋様は花のように美しく、図柄に立体感をかもしだしています。この紋様に緋や緋、格子をあしらった着尺や帯、手巾などがあります。

かつて手巾は「ウミイヌ・ティーサージ（想いの手巾）」とか「ウミナイ・ティーサージ（祈りの手巾）」と呼ばれ、愛しい人に想いを込めあるいは旅立つ肉親のために安全を祈り織ったロマンの伝わる織物です。

赤、黄、緑などの多彩な色糸でジンバナ（鏡花）、オージバナ（扇花）、カジマヤーバナ（風車花）の3つの基本花とする30種余の幾何学模様の花柄を織り、これに緋や緋、格子の加わった幾種があります。



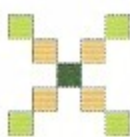
ジンバナ(鏡花)

お金をかたどった模様で格柄になりますようにという願いをこめて。



オージバナ(扇花)

未成がりの扇形を写した扇花で子孫繁栄の願いをこめて。



カジマヤーバナ(風車花)

37 段になると風車を配る習俗から長寿の願いをこめて。

着物

多彩な花模様を色系で浮かせ緋の風合いをあしらった南国情緒あふれる織物です。



帯

絹素材の糸を使い、花糸を浮かして刺繍のように模様を作っているのが特徴的な織物です。



フクギ

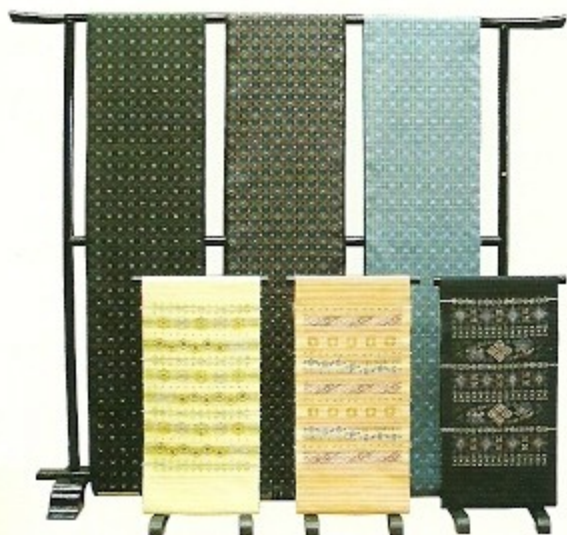
ティーサージ(手巾)

好きな人へ思いを込めて、また旅へ出る家族や愛する人へ無事安全を祈って織り、贈っていました。



ミンサー帯  
木綿を原材料とする  
(ミン)  
細帯です。  
(サー)

花織の柄は、フクギやヤマモモ、グールなどの天然染料で染められた糸を用いて、独特な色合いを出しています。



着尺・帯

※読谷山花織・読谷山ミンサーは伝統的工芸品に指定されています。

検査に合格したのものには証紙が貼られ、商品となっています。



組合証紙



組合証紙



織物検査済之証



伝統証紙



沖縄県産紙

基本の文様と中に入った塩と米粒が幸福を招きます。



マースストラップ

全長約 5.5×3.5cm

着物地を加工して作られた根付はおしゃれなアクセントに！



根付

全長約 9.5~10.2cm  
(根付紐含む)

小さくてもしっかり自分を主張しています。個性的なあ・な・たへ

ネームストラップ  
全長約 45.0×1.5cm

琉球ガラスや花瓶を置いて使ったり、フォトフレームに入れて飾ればお部屋に華やかさをプラスします。

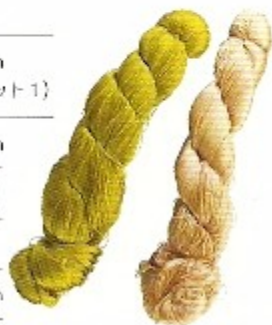
コースター  
約 11.5×10.0cm花織マット(ミニ)  
約 18.0×31.0cm花織ネクタイ  
長さ 約 143.0cm  
大剣幅 約 9.0cmテーブル  
センター

小 約 46.0×28.0cm  
大 約 66.0×32.0cm  
特大 約 126.0×32.0cm



着物地を加工して作られています。一つ一つの模様はどこをとっても繊細で上品な印象の小物たちです。

- ① 2つ折り財布 約 10.5×8.8cm  
(ポケット2・カード2・ファスナーポケット1)
- ② がまぐち財布 約 12.2×9.0cm
- ③ 月丸小銭入れ 約 8.2×8.2cm
- ④ 印鑑入れ 約 8.6×4.4cm
- ⑤ メガネケース 約 6.2×19.0cm



※商品は、ひとつひとつデザインが異なります。手織りのため、多少サイズに違いがあります。